

## ケシヨウヤナギの新しい分布地 (4) ー大町市籠川ー

横内 文人

### Fumito Yokouchi : New distribution of *Chosenia arbutifolia* (4)

ケシヨウヤナギは、隔離分布の代表種として有名である。近年は上高地を含む梓川以外にもその分布地を広げている。穂高町中房川、波田町黒川、穂高町と堀金村の烏川、池田町高瀬川等である。

今回、大町市籠川大橋近くに分布するケシヨウヤナギの観察の機会を得たので報告する。

1. 発見の経緯 籠川のケシヨウヤナギの分布は、新聞記事で知り、1992年4月12日に現地を訪れた。籠川大橋の下流側の河床の中央に大小6本のケシヨウヤナギを認めた。当時の籠川の流れは、河床の西縁側であった。しかし、1997年夏の大雨により全て流失した。それは、籠川大橋の橋脚保護の目的で橋の直ぐ下流側で堰堤工事を実施したために川床の中央が流路となったからである。

その後、籠川大橋の兩岸の上下を数kmにわたって調査した。今回、筆者が発見したケシヨウヤナギは、籠川の左岸に1本だけ生育していた。籠川大橋の上流約1kmの川床である。差し渡し0.3~0.8mの石がぎっしりと並び、隙間は砂礫である。現在の水面より約5m高い場所である。林床やその周辺には、オオイタドリが多数生育し、日本海型気候下にあることがわかる。ケシヨウヤナギの枝分かれの様子からおよそ15年生位と考えられる。

2. 籠川のケシヨウヤナギの生育地の環境と植生

調査年月日：1998年8月17日

調査場所：大町市籠川

標高：960m

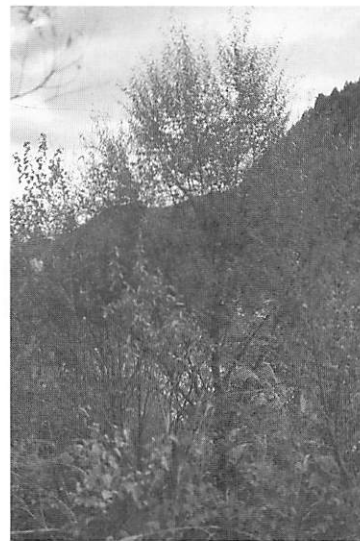
傾斜方向と傾斜角：SE 5°

調査面積：5m×5m

出現種数：11種

植生：高木層（8m/80%）ケシヨウヤナギ4・4、オオバヤナギ2・2、ミヤマヤシャブシ1・2、シラカンバ+・2、低木層（3m/10%）オオバヤナギ1・2、シラカンバ+・2、ヤマブドウ+、草本層（2.0m/70%）オオイタドリ3・3、ススキ2・2、ヨモギ1・2、ノコンギク+・2、アキノキリンソウ+、シラカンバ+。

3. ケシヨウヤナギの記録：樹高約8m、根回り0.56m。回りのオオバヤナギやミヤマヤシャブシ等の生育がよく、日当たりはあまりよくないが、下部より枝がよく出ている。



ケシヨウヤナギ